

1 学校教育目標

○進んで学ぶ人 ○礼儀正しい人 ○やりとげる人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指す学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自ら学ぼうとする意欲があり、自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自分には厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状及び成果】

- ① 全校的に落ち着いた環境の中で授業を中心に学校教育活動が展開されている。授業改善推進校として授業改革に努める教員の姿勢があり、ICT を活用した授業展開を工夫し実践する教員も存在する。
- ② 各学校行事（運動会、文化祭、合唱コンクール）コロナ禍前の内容で達成感や連帯感をもてるものとして実践できた。生徒による自治活動の活性化を生徒会全体として取り組んでいる。保護者や地域の学校生活アンケート「生徒会活動・学校行事への取組」の肯定的評価85%との評価を得ている。
- ③ 授業においては授業改善推進校としての取組を通して生徒主体となる授業実践が定着してきている。学習課題からめあてを引き出す授業を目指している。生徒アンケートより「めあて」の提示が学校全体で97%であった。

【課題】

- ① 学力の向上の基礎となる学習意欲の向上を図るため、生徒授業アンケートや学力調査等の結果・分析と教師の授業改善の意欲推進や授業外（家庭学習）における学習の取組の充実を図る必要がある。
- ② 個別最適な学びの視点から、知識・技能の着実な習得を図るとともに単元全体をとおして、思考力・判断力・表現力、問題解決能力の育成を図るため、生徒が主体となる授業展開の実践とさらなる改革による発問の精度を向上させる一層の取り組みが必要である。
- ③ 不登校生徒と登校しぶり生徒の割合は高い状況（6%程度）が続いており、生活指導部と教育相談部、教育相談コーディネーターを中心に学校全体で組織的に取り組むとともに、SCやSSWを活用した関係機関等との一層の連携を図る。サポートルームの活用もさらに進めていく必要がある。また、生徒の問題行動への初期対応、保護者への対応、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けて、学校全体で組織的な対応を継続する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実と小中連携の強化			○	○	○
3	心の教育の充実と組織的な対応	○	○	○	○	○
4						

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
学びの意欲と学力の向上		到達度確認テスト 正答率学校全体 62% 令和6年度通過率 65%	自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
							自己評価の際に記入		

1 新規	授業力の 向上	全教科 全教員	通年	<p>○年間3回他教科校内授業観察週間の設定と研究協議会の実施。</p> <p>○管理職による授業観察年3回実施と自己申告時の面接。 ・教科指導専門委員との成果発表授業研究協議会の実施</p> <p>○小中連携による研究授業公開と協議会及び研修会実施（年6回） ・事前指導案検討→研究授業→研究協議を4校で実施 ・各教科担当小中校長からの指導講評の実施</p> <p>○区中研参加の徹底と都研参加の増加と還元研修の実施</p>	<p>○指導主事による授業観察と指導講評</p> <p>○授業観察シートによる授業評価</p> <p>○年間2回生徒授業アンケート実施</p> <p>○年度末到達度確認テストによる検証</p> <p>○令和6年度末区学力調査による検証</p> <p>○保護者授業アンケートによる検証</p>	<p>○研究協議後の授業改善に生かした教員90%</p> <p>○管理職による授業評価4段階 B以上90%以上</p> <p>○生徒の授業アンケート肯定的回答90%</p> <p>○小中連携教員間の肯定的回答80%以上</p> <p>○年度末到達度確認テストの正答率各学年65%以上</p> <p>○保護者学校評価授業アンケート「改善を要する」5%以下</p>			
継続	朝学習の実施	全生徒 国語 数学 英語 理科 社会	週5回 通年で 実施	<p>朝学習10分間を徹底する</p> <p>○取組のねらい・目的 学習習慣を身に付け基礎学力定着と学力の向上を図る。</p> <p>○使用教材 A Iドリル 教科担任作成ドリル キュビナシートによる自己分析</p>	<p>キュビナ活用レポートによる分析と検証対策</p> <p>各教科キュビナシートによる分析の実施</p>	<p>月平均回答数 全教科合計150問以上 8月の回答数の向上 強化月間300問以上</p>			

新規	授業展開の工夫	全教員	通年	<p>○授業内でのタブレット端末を活用した学習の提供</p> <p>○デジタル教科書の有効活用</p> <p>○Google クラスルームの活用</p>	<p>○管理職による授業観察</p> <p>○学習進路部による状況確認</p> <p>生徒アンケートICT活用に関する評価</p>	<p>○授業にICT機器を活用した教員 100%</p> <p>○学習進路部によるICT機器活用アンケート肯定的意見 80%</p> <p>○生徒授業アンケート肯定的回答 80%</p>			
継続	学習コンテスト	全生徒 国語 数学 英語 社会 理科	各教科 年2回 ～3回	<p>○基礎学力の向上と定着を図るコンテストを実施。</p> <p>○学習意欲の向上と学習習慣の形成を図るコンテストの実施。</p> <p>【使用教材】 教科担任作成問題 各教科1回プレテスト実施後、本番コンテストを実施する。</p>	<p>定期テストによる検証。</p> <p>再テストによる検証。</p> <p>コンテスト結果で検証する</p> <p>年度末到達度テストで検証する。</p>	<p>国語・数学コンテスト合格率平均90%以上</p> <p>英語コンテスト合格率平均85%以上</p> <p>再テストの合格達成率80%以上。</p>			

重点的な取組事項－2		キャリア教育の充実と小中連携の強化			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

自身の特性に応じた進路を考え、将来の夢や目標に向かい努力できる力を身に付けさせる。	区調査意識アンケート 「将来の夢や目標を持っていますか」 学校全体 70%以上 「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」 学校全体 80%以上	自己評価の際に記入		
---	---	------------------	--	--

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
組織的なキャリア教育の実施	区学力調査の意識調査 「将来の夢や目標を持っている」70%以上 生徒アンケート 「なりたい職業や興味をもっている職業がある」75%以上	<ul style="list-style-type: none"> ○学習進路部によるキャリア教育研修の実施を行う。 ○3年間のキャリア教育計画を実践していく。SDGsの視点を取り入れた活動を実践する。 ○外部指導者を招き特別授業を実施する。 	自己評価の際に記入		
特別活動の充実	区意識調査 「自分がやるべき事は、やりたくないときでも、きちんとやりぬくことができる」80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動の充実 学期目標や学級目標に対して振り返りを行わせる。取り組ませた行事等の事前事後学習の充実を図る。 ○学校行事の充実 これまでの行事に生徒の意見を取入れる等、生徒主体の活動を実践する。 ○生徒会活動の充実 各委員会の取組を朝礼等で発表するなど活動を表面化し、活性化する活動を提案させ実践させる。校則見直し等に生徒の意見を取り入れる場を設定する 			

小中連携の強化	区意識調査 「難しいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる」 80%以上	○義務教育9年間の小中一貫教育の視点によるキャリア教育スタイルを検証し推進する。小中連携担当部門を設置する。 「夢デザインシート」(キャリアパスポート)の活用。			

重点的な取組事項－3					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人を大切に作る心の教育		区意識調査 「自分には良いところがある」項目の数値向上75%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○心の教育の充実 ○いじめ防止 ○道徳授業の充実	・WEBQU調査 学年「学級生活満足群」 全国平均+10ポイント ・要支援群の数値減少 ・学校評価による心の育成についてB評価以上 90% ・自己肯定感の調査で、肯定的評価の生徒 90% ・いじめ防止活動アンケート集計肯定的評価 90%	○WEBQU調査年2回 QU研修の実施 ○生徒会と保護者地域関係者との連携活動の実施 ○生徒会自治活動の充実と「いじめ根絶」活動の実施 ○外部指導者を招き特別授業を実施 ○ローテーション型道徳授業の実施と公開授業における地域関係者との協議会の実施	自己評価の際に記入		

<p>○不登校生徒・登校しぶり生徒への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価「子供は第十四中の生活に満足している」項目B以上90% ・不登校生徒の登校支援をすすめる継続的な関係づくりと定期面接の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援委員会と教育相談コーディネーターによるケース会議の計画的実施 ○SSW、SCの有効活用 ○学校での居場所SRの有効的な環境づくり ○保護者、地域関係者との連携 	
<p>○全校体制での生徒への個別支援</p>	<p>教育相談部会の年間35回以上実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週木曜2校時に教育相談部会を実施 ○SC・SSWと不登校、不応答生徒の情報の共有化を図る。 ○特別支援教室との個別支援の連携充実を図る。 	
<p>○自己肯定感の向上</p>	<p>「自分には良いところがある」項目の数値向上75%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動の充実 学級活動における一人一役において反省と振り返り、自己評価の実施の実施。 ○学校行事の充実 各学年行事、各学校行事一人一役の実施と反省振り返り、自己評価の実施。 ○生徒会活動の充実 各委員会・係活動における取組を反省振り返り、自己評価の実施。 <p>上記についての教員による肯定的声掛けを実践する。</p>	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）